

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 秋田市立秋田商業高等学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒010-1603
秋田県秋田市新屋勝平台1-1
 E-mail : akisho@akisho.ed.jp
 Website : http://www.akita.ed.jp
 児童生徒数：男子 322名 女子 396名 合計 718名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

ビジネス実践の枠組みの中に「エコロジカルビジネス」の部門が設けられてから3年目になる。この班は今年度、3年生12名、2年生7名、教員2名で構成されていた。昨年度と同様に、「企業やNPO法人などとの連携を通して、エコロジカル（生態系保全）とビジネス（商業・経済活動）を両立させた『持続可能な社会』の構築のために行動する力を育成する」ことを目標にしながら多様な活動を行った。

今年度取り組んだことは、以下の三つのものに大別することができる。

1) 外部講師による講座

次の期日に講師の方々に来校してもらい、持続可能な社会に関連した講座を受講した。9月～10月の講座は秋田県の「環境の達人」地域派遣事業による。

これらの講座はすべて「持続可能（サステイナブル、sustainable）」という概念に関連させるようにした。

6月25日（木） 講師：さいとうみつこ氏
『海から上がったおむすび地蔵さん』による地域理解講座

9月17日（木） 講師：サステイナブルデザイングループ 辻 純一氏
「サステイナブルプロジェクトについて」

10月16日（木） 講師：長田建設株式会社 長田陽一氏
「サステイナブルハウスについて」

10月29日（木） 講師：秋田ペレット株式会社 石井廣喜氏
「ペレットストーブの促進について」

2) 企業やNPO法人などとの連携

具体的な連携先と、その連携先で行った主な活動は以下の通りである。

- ① 一般社団法人あきた地球環境会議・・・「地球温暖化について学ぶデジタル紙芝居」の実施
- ② 伊藤良治様・・・秋田杉の廃材からリサイクル箸を作成
- ③ さいとうみつこ様・・・勝平小学校での割り箸による書画講座の手伝い
- ④ 株式会社コバリン・・・もみ殻を固めて作った各種ボードの展示場を見学
- ⑤ 秋田ユネスコ協会・・・「東北ブロックユネスコ活動研究会」で受付等

3) AKISHOP、キッズビジネスタウンでの活動

ビジネス実践の他の二つの部門と連携して、いくつかの活動を行った。

AKISHOP のメインイベントが開催された日の前日、3年生の女子生徒5名は秋田市雄和・協和地区まで移動し、雨のなか農園でダリア摘みを行った。そこで摘んだダリアは、本校生花部の3年生の協力のもとにキッズビジネスタウンの会場となる本校の飾りつけに使ったほか、翌日の AKISHOP 会場において来場者に無料配布した。

エコロジカルビジネスの生徒たちはまた、家庭で不要になっている物品を持ち寄り、AKISHOP 当日、それらを販売するフリーマーケットを開いた。たくさんのお客さんが来てくださり、午前中にはほぼ完売した。この取り組みにより5,640円の収益が上がり、シリア難民のために国連 UNHCR 協会に寄付した。

フリーマーケットの近くでは、リサイクル箸を作成するコーナーを設けた。これは、あらかじめ棒状になった木材（秋田杉の廃材）にやすりをかけて自分なりの箸を作成し、最後に伊藤良治さんに仕上げてもらったうえで無料で持ち帰ることのできる講座である。100名ほどの来場者がこの箸を作り、用意した木材は午前中でほぼなくなった。

一方、3年生の女子生徒4人は、さいとうみつこさんの指導を受けながら、キッズビジネスタウンの一環として書道室で「自分発見講座」を実施した。リーフレットの説明文には、「自分や他の人の良いところを見つけ、なりたい自分に近づくことのできる講座」と書かれている。同じ場所で、割り箸を使った書画の体験コーナーも用意した。たくさんのお小学生や保護者の方が来場していた。

4) 今年度のその他の特記事項

国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）に合わせて、フランス・パリのユネスコ本部で2015年12月7日～8日に開催されたユネスコ主催「気候変動国際セミナー」に本校が参加したため、以下にその内容について報告したい。本校のほか、気仙沼市立階上中学校、岡崎市立新香山中学校、信州大学教育学部附属松本中学校、神戸市立葺合高等学校、不二聖心女子学院中学校・高等学校が参加した。

① セミナー開催の背景

このセミナーの正式名称は、The UNESCO International Seminar on Climate Change Education ‘Getting climate-ready: ASPnet schools’ response to climate change（気候変動教育に関するユネスコ国際セミナー「気候変動問題に向き合う——気候変動に対するユネスコスクールの取り組み」）である。ユネスコによると、このセミナーの開催は2105年の国連気候変動会議（COP21）に対するユネスコの主たる貢献であり、国連気候変動枠組み条約第6条（気候エンパワーメントのための行動）の実施に相当するという。このセミナーはユネスコの「持続可能な開発のための教育に関する世界行動計画」に焦点を当てるものであり、また、この行動計画は「国連持続可能な開発のための教育の10年」（2005年～2014年）を正式に引き継ぐものであるという。

ユネスコスクールは、全世界には181カ国に1万校以上ある。このセミナーで一堂に会したのは11カ国（ブラジル、デンマーク、ドミニカ共和国、フランス、ドイツ、ギリシャ、インドネシア、日本、レバノン、ナミビア、セネガル）のナショナル・コーディネーター（ユネスコ国内連絡担当者）、そして、そうした国々にある55校のユネスコスクールの教員と生徒である。司会者や全体会合

の話題提供者も含めて、約 100 名がこの会議に参加した。

英語圏だけでなく、フランス語圏やスペイン語圏からの参加国もあったため、英語、フランス語、スペイン語の同時通訳が行われた。フランス語やスペイン語で話す人がいれば、座席に備えつけられているヘッドホンで英語を聞くことができた。

② セミナーの概要

このセミナーの目的は、参加する学校や国から始めて、気候変動問題をユネスコスクールの中に組み入れるための踏み台となること、とされていた。ユネスコ事務局長のイリーナ・ボコバ氏は歓迎の挨拶の中でこう述べた。「持続可能性は学校から始まります。そのようなわけで、ユネスコスクールのネットワークは非常に大切なのです。ユネスコスクールは、地域や社会の必要に敏感な、『脈をはかる者』です。ユネスコスクールはまた、ユネスコの優先順位と価値観を地方での枠組みの中に組み込むにあたって、『ペースを決める者』でもあります」

セミナーの全体会合においては、持続可能な開発のための教育（ESD）と気候変動の専門家とともに、気候変動教育を「ホールスクール・アプローチ（学校全体の取り組み）」を通してどのように実施するかについて話し合った。また、各校の取り組みについてのプレゼンや討論、ワークショップも行い、優良実践例を共有したり、行動の規模を拡大するための戦略を開発したりした、ということになっている。

2 日間の主な日程は次の通りである。

1 日目： 2015 年 12 月 7 日（月）

気候変動に関する教育についての公開討論会

- ・気候変動に対するホールスクール・アプローチと教育に関する基調演説
- ・全体会合 1: COP 21 での気候変動に関する教育
- ・全体会合 2: マルチステークホルダーによる協力の促進
- ・全体会合 3: 気候変動に関する教育は、学校現場においてどのように実現しうるか

2 日目： 2015 年 12 月 8 日（火）

「ホールスクール・アプローチを通して、どのように気候変動に関する教育を実施するか」についてのユネスコスクール参加者のディスカッション

- ・全体会合 4: 気候変動に関する教育を促進するためにユネスコスクールの世界的ネットワークは何かできるか
- ・全体会合 5: ホールスクール・アプローチによる ESD と気候変動に対する取り組みの維持
- ・パラレルワーキンググループ（3 つのグループに分かれ、並行して行うワ

ークショップ)

- ・全体会合 3: ホールスクール・アプローチによる ESD と気候変動に対する取り組みの維持

③ 会議での発言

全体会合の一つで挙手し、これまで本校で編集・発行にたずさわった『高校生のための地球環境問題入門』（アルテ、2012年）等の5冊の本で最も主張したかったことを述べてきた。話す内容はその場で考え、メモに書いた。その内容を以下に翻訳して掲載したい。

日本の秋田商業高校の教員です。私たちの学校は、ESDに関連した高校生向けの5冊の本を編集・発行してきました。残念ながらそれらは英語ではなく、日本語で書かれています。それらは国際協力、国際連合システム、アフリカ理解、地球環境問題、そしてESDに関する本です。私が書いた章や記事では、世界資源を分かち合う必要を強調しました。

COP 21の会議を見てもお分かりのように、先進国と開発途上国の間には対立があります。この対立を解消するには、国家間での信頼が必要です。信頼を創り出すには、人類が一つであること、私たちは同じ人類家族に属していることを認識し、同胞愛の精神で世界資源を公平に分かち合う必要があります。

世界資源の分かち合いを実施するには、資源の再分配を専門に行う新しい国連機関が必要となるかもしれません。

すべての国の間で資源を分かち合い、信頼を創造することができれば、気候変動対策の一つとして密接な国際協力のもとに世界中で何十億本という木を植えることもできます。皆さんには、このような取り組みの可能性について考えていただければと思います。

このように言ってみたものの、私のこの発言に対する直接の反応はなかった。会議中には言いたいことがある人が多く、次から次へと手が挙がっていた。タイミングを見て挙手するのも大変な状況であった。

なお、渡航直前の12月5日（土）には、東京の昭和女子大学で開催されたユネスコスクール全国大会で登壇した。他の参加校の代表者とともに、自校での取り組みや国際セミナー参加への意気込みなどを語った。

（以上で、1年間の主な活動内容についての記載終わり）

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

)